



「子ども国際観光科」に組み込まれる松島まるごと学の授業で瑞巖寺を見学する松島五小の子どもたち

松島の文化

3小学校 国の特例校指定

英語で学ぶ

独自に教育課程を編成

観光案内でできる力育む

松島町立の全3小学校が本年度、英語を通じて地域の歴史や文化を学ぶ新教科「子ども国際観光科」を全学年で導入した。文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、既存教科の授業を組み替えて各学年で最大85時間を確保。日本三景の一つ、松島の特性を生かし、外国人観光客に英語で観光案内ができる語学力やコミュニケーション能力を育む。

特例校は学習指導要領の基準によらず、独自に教育課程を編成できる。3校の1、2年生は国語と生活科の計20時間を新教科に充当。地域を調べて英語で紹介する授業などを外国語指導助手（ALT）や担任から受ける。

3～6年生は、総合学習の一環として瑞巖寺の見学や品井沼干拓を学んできた歴史文化カリキュラム「松島まるごと学」を活用。3、4年は外国語活動を加えて50時間、5、6年は外国語科と合わせて85時間を確保した。外国語の専科教員と担任が教える。

新型コロナウイルス流行前の松島は、外国人観光客数が増加傾向だったという。町教委は、2016年度から小中学生が観光スポットを英語で案内する事業などを展開。観光地としての地の利を生かした英語教育を体系的に進めようと昨年8月、文科省に特例校への指定を申請した。今年3月8日付で指定され、期間は10年間と定められた。

内海俊行教育長は「松島の財産を教材として活用し、時間をかけて英語力を伸ばす。郷土の歴史や文化に誇りを持ち、日本語だけでなく英語でも発信できるグローバル人材を育てたい」と意気込む。